

科目名 日本語特論 I		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	高野 克宏	
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 「読む」「書く」などの言語活動を通して、物事を正しく認識・判断できる。				DP との関連 DP I -1 3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	文章基礎力① 語彙			講義
2	文章基礎力② 文法			講義
3	文章読解力① 意味内容 文章構成			講義
4	文章読解力② 資料分析			講義
5	文章作成力（書く力） 表現			講義
6	文章作成力（伝える力） 総合・通信文			講義
7	文章作成力（考える力） 総合・論説文			講義
8	文章読解①			講義
9	文章読解②			講義
10	文章読解③			講義
11	文章読解④			講義
12	文章要点把握① 要約文作成			講義
13	文章要点把握② 要約文作成			講義
14	文章要点把握③ 要約文作成			講義
15	試験			試験
使用するテキスト 配布資料による			評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 日本語特論Ⅱ		配当時期 1 年前期～ 後期	講義担当者 高野 克宏	実務経験
		単位数 1 単位		
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 思考の形式および法則を正しく理解する。 2 思考内容やその結果を論理的文章で正確に表現し、伝える能力を身につける。				DP との関連 DPⅠ－1 3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	短文添削の練習問題①			講義
2	短文添削の練習問題② 書き言葉と話し言葉練習問題①			講義
3	書き言葉と話し言葉練習問題② 解説			講義
4	語順の練習問題① 解説			講義
5	語順の練習問題② 解説 課題提出方法			講義
6	課題文 読解と要約文作成 提出			講義
7	要約文講評と解説 キーセンテンス解説 要約文作成			講義
8	課題文作成			講義
9	事実と意見の書き分け方 要約文の講評と解説			講義
10	読点の打ち方について 解説と練習問題			講義
11	演繹法と帰納法の論理 文章構成 課題文講評と解説			講義
12	課題文作成 提出			講義
13	課題文 調査と準備			講義
14	課題作文評価と解説 調査と構成スケッチ確認			講義
15	課題文章作成と提出			講義
使用するテキスト 配布資料による			評価方法 レポート 100 点	

科目名 物理学		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位 時間数 30 時間	外部講師	
実務経験教員対象科目				
事前学習内容				
シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 自然現象の基礎理論を理解する。 2 看護に必要な物理的知識を身につける。 3 看護技術の科学的根拠や医療機器の仕組みを理解する。				DPⅢ－1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	スカラーとベクトル 力の合成			講義
2	分解の応用 加速度と力			講義
3	運動方程式 補助単位 トルク			講義
4	てこの原理 トルクの応用			講義
5	重心の応用 安定性 仕事 仕事率			講義
6	運動量と力積 作用 反作用			講義
7	温度の種類 熱容量と比熱 熱量保存			講義
8	潜熱 熱の伝わり方			講義
9	試験（1 時間）			試験
10	電流 オームの法則 電力			講義
11	圧力 単位換算 サイフォンの原理			講義
12	ベルヌーイの定理 ネブライザーの仕組み 表面張力			講義
13	ボイル・シャルルの法則 比重 アルキメデスの原理			講義
14	波 反射と屈折 その法則 光の分散			講義
15	レンズの公式 放射線			講義
16	試験（1 時間）			試験
使用するテキスト			評価方法	
完全版ベッドサイドを科学する～看護に生かす物理学～ 学研メディカル秀潤社			筆記試験 100 点	

科目名 情報科学		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	中尾 剛 箱崎 裕子	
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 社会における情報化の進展およびコンピュータの役割や仕組みとその利用法について理解する。 2 データ（情報）の処理の方法を習得し、看護に応用できる能力を身につける。 3 医療における、情報管理について理解する。				DP との関連 DPⅡ－1 DPⅢ－1 DPⅥ－1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	情報科学の概要 メディアリテラシー			講義
2	情報化社会の光と影 インターネット利用と著作権 個人情報の取り扱い			講義
3	情報流出とモラル 情報の効果的な検索と情報の信頼性			講義
4	プレゼンテーションの概要と効果的な発表方法			講義
5	プレゼンテーションソフトウェアの使用方法			講義
6	プレゼンテーション実習①			講義
7	プレゼンテーション実習②			講義
8	Web 会議システムの実施 電子メール			講義
9	Web アンケートの実施・集計			講義
10	統計処理と表計算ソフトウェアの基本①			講義
11	統計処理と表計算ソフトウェアの基本②			講義
12	統計処理と表計算ソフトウェアの基本③			講義
13	ワープロと表計算ソフトウェアの連携			講義
14	数値データの処理と可視化 データ考察			講義
15	医療と看護師と電子情報 医療情報システム			講義
使用するテキスト 基礎からはじめる情報リテラシー Office2019 対応 実教出版			評価方法 レポート 100 点	

科目名 哲学		配当時期 3 年前期	講義担当者	実務経験
			笠井 哲	
実務経験教員対象科目		単位数 1 単位		
		時間数 30 時間		
事前学習内容				
シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 哲学の抽象的な概念を学び、人間の存在・権利・価値観・ものの見方を理解する。				DPⅡ－1 2 3
2 多様な価値観を認識し、倫理に基づいた看護を理解する。				4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	哲学の語義 哲学の発生			講義
2	哲学と人間存在 哲学と科学技術 自動運転自動車のAIへの応用			講義
3	古代ギリシャ哲学 ソクラテス プラトン アリストテレス 教父哲学			講義
4	三位一体と三元徳 アウグスティヌス スコラ哲学トマス・アクティナス			講義
5	ルネサンスと宗教革命 経験論と合理論			講義
6	百科全書派 ルソー ロック ヒューム			講義
7	フィヒテ シェリング ヘーゲル			講義
8	近現代の禅文化 近現代の教育			講義
9	福沢諭吉における道德教育と科学技術			講義
10	近現代の倫理 科学技術			講義
11	科学技術と人間の幸福 近現代の思想 宗教			講義
12	倫理観			講義
13	死生観 生命倫理			講義
14	専門職倫理①			講義
15	専門職倫理②			講義
使用するテキスト				評価方法
哲学的思索への道 文化書房博文社 近現代の日本文化 北樹出版				レポート 100 点

科目名 文学と表現		配当時期 3 年前期～ 後期	講義担当者 渡部 裕太 外部講師	実務経験
		単位数 1 単位 時間数 30 時間		
実務経験教員対象科目				
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 ＜文学＞ この授業では、読むことに関する理論を学び、それを実際の作品で用いて習得することをめざす。理論については、テキスト生成について考えるために必要な知識事項を学ぶ。実際の作品は、音楽・映像・図画などの各メディアと文学の関係を考えやすい作品を、都度こちらで提示する。文学という性質上、読むものが多い。作品に触れずに授業に参加しても得られることは少ないので、こちらで課題を指定した場合には必ず読んでくること。 1 文学作品の読み方を学び、複層的な作品理解ができるようになる。 2 文学作品の背景・解釈を学び、それを通して社会状況を考えることができるようになる。 3 視聴覚作品を通して、物語行為とはどういうものか理解する。 ＜芸術＞ 1 芸術に触れ、自己の情緒的・知的な反応を刺激し、豊かな感性を育む。				DP との関連 DP I -1 3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	文学の範囲			講義
2	物語とはどういうものか			講義
3	読むとはどういった行為か			講義
4	文学作品の読解①			講義
5	文学作品の読解②			講義
6	文学作品の読解③			講義
7	文学作品の読解④			講義
8	試験（1時間）			試験
9	映画「フラガール」鑑賞			講義 演習
10	フラダンスの歴史・意味 いわき市との関わり			講義 演習
11	講師によるフラダンスの指導①			講義 演習
12	講師によるフラダンスの指導②			講義 演習
13	講師によるフラダンスの指導③			講義 演習
14	講師によるフラダンスの指導④			講義 演習
15	芸術鑑賞：フラダンス発表・鑑賞（3時間）スパリゾートハワイアンズ			演習
16				
使用するテキスト 夜に駆ける YOASOBI 小説集 双葉文庫 授業内で読むべき作品を示すので、授業開始までに通読しておく必要はないが、毎授業必ず持参すること。また、その他の教材についてはこちらから配布する。			評価方法 筆記試験 80 点 レポート 20 点	

科目名 心理学		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
			高島 翠	
実務経験教員対象科目		単位数 1 単位		
		時間数 30 時間		
事前学習内容				
シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 人間の心の働きの基礎を学び、自己および看護の対象の心理を理解する。				DP I -1 2 3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	心理学とは 知覚・認知心理学			講義
2	学習と行動① 記憶			講義
3	学習と行動② 学習心理学			講義
4	学習と行動③ 動機付け			講義
5	学習と行動④ 知能			講義
6	発達心理学① 感覚と知覚の発達 ピアジェ			講義
7	発達心理学② フロイト エリクソン			講義
8	発達心理学③ 心の発達評価 (1時間)			講義
9	試験 (1時間)			試験
10	情緒行動① 感情 ストレス			講義
11	情緒行動② 対人魅力			講義
12	カウンセリングの理論と実際① 聞くと聴く			講義
13	カウンセリングの理論と実際②			講義
14	アサーション①			講義
15	アサーション②			講義
16	アサーション③ (1時間)			講義
17	試験 (1時間)			試験
使用するテキスト			評価方法	
配布資料による			筆記試験 100 点	

科目名 社会学		配当時期	1 年後期	講義担当者	実務経験
		単位数	1 単位	佐藤 知菜	
実務経験教員対象科目		時間数	30 時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。					
科目のねらい・授業目標 1 社会変革の現実を知り、その中で生活している人間を理解する。 2 社会の最小単位である家族について学び、それぞれに抱える問題について理解する。					DP との関連 DP I -1 2 3 4
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)					
回	学習内容				方法
1	社会学とは				講義
2	社会の構造①				講義
3	社会の構造②				講義
4	文化と社会生活① 多文化共生社会				講義
5	文化と社会生活②				講義
6	家族の構造と機能① 家族とは 家族の機能				講義
7	家族の構造と機能② 家族に関わる諸問題				講義
8	家族福祉を考える				講義
9	現代社会と病理① 貧困 ホームレス				講義
10	現代社会と病理② 働き方 不安定雇用 フリーター				講義
11	現代社会と病理③ 児童虐待				講義
12	現代社会と病理④ 高齢者介護 ダブルケア				講義
13	現代社会と病理⑤ ジェンダーとセクシャリティー				講義
14	現代社会と病理⑥ ジェンダーとセクシャリティー				講義
15	いわき市の社会問題				講義
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院				評価方法 レポート 100 点	

科目名 教育学		配当時期 2 年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位 時間数 30 時間	名取 洋典	
実務経験教員対象科目				
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をして授業の中で何を学ぶのかを把握しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 教育とは何なのか、どのように働きかけることがその人の発達を促すことになるのかという教育の本質・方法を理解する。 2 看護における教育的アプローチに応用できる能力を身につける。 3 生涯学習の必要性を認識し、主体的に学ぶ姿勢を身につける。				DP との関連 DP I -1 2 3 4 DPVI-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	学びの環境を整える① 安心して学ぶために必要なことを考える			講義 演習
2	学びの環境を整える② 安心した学べる環境に整える			講義 演習
3	教育学を学ぶために① 社会のなかの教育と看護			講義 演習
4	教育学を学ぶために② 教育とはなにか・子ども観と発達			講義 演習
5	教育学を学ぶために③ 教育とはなにか・社会変動と教育			講義 演習
6	教育学を学ぶために④ 教育とはなにか・学校			講義 演習
7	教育をなりたせるもの① 教授			講義 演習
8	教育をなりたせるもの② 訓育			講義 演習
9	教育をなりたせるもの③ 養護・発達			講義 演習
10	教育の営みを考える① 家庭と学校			講義 演習
11	教育の営みを考える② 目標と評価			講義 演習
12	教育の営みを考える③ 教育をデザインする			講義 演習
13	教育の営みを考える④ 専門性と専門職性・教育環境の変化			講義 演習
14	現代教育の課題① キャリア教育・ジェンダーとセクシャリティー・インクルーシブ教育			講義 演習
15	現代教育の課題② これまでの振り返りから「生涯学習」について考える			講義 演習
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院			評価方法 毎回の授業での小レポート 100 点 討論への参加の程度によっては減点の対象とします。	

科目名 レクリエーション理論		配当時期 1年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	五十嵐 幸一	
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 人間生活における気分転換活動の必要性和ストレス解消法を学ぶ。 2 レクリエーションの実際を学ぶ。 3 自己の体力維持に役立てるとともに、健康な精神を育む。				DP との関連 DP I -1 2 3 4 DP VI - 1
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	レクリエーションの概要			講義 演習
2	チームビルディング①			講義 演習
3	チームビルディング②			講義 演習
4	バドミントン基礎練習			講義 演習
5	バドミントン実技練習①			演習
6	バドミントン実技練習②			演習
7	バドミントン実技練習③			演習
8	体力テスト			演習
9	ソフトバレーボール基礎練習①			講義 演習
10	ソフトバレーボール基礎練習②			講義 演習
11	ソフトバレーボール試合①			演習
12	ソフトバレーボール試合②			演習
13	ソフトバレーボール試合③			演習
14	選択種目 ゲーム主体運営①			演習
15	選択種目 ゲーム主体運営②			演習
使用するテキスト 配布資料による			評価方法 実技試験 100 点	

科目名 人間関係論		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	笠井 哲	
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 人間を人との関係で生き成長する存在として理解する。 2 人間関係を円滑に保つ必要性と方法について学び、コミュニケーション能力を身につける。				DP との関連 DP I -1 2 3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	人間関係論の概要 自己開示紹介			講義
2	専門看護師の仕事			講義
3	人間関係の中の自己と他者			講義
4	対人関係と役割 論理療法の実際			講義
5	態度と対人行動 説得的コミュニケーション			講義
6	援助 集団と個人 ディスカッション			講義
7	リーダーシップ コミュニケーション			講義
8	カウンセリング 来談者中心療法① あいづちの実際			講義
9	来談者中心療法② オウム返しの実際			講義
10	アサーティブ・コミュニケーション			講義
11	コーチングの定義とスキル チャートコーチングの実際			講義
12	保健医療チームの人間関係			講義
13	患者を支える人間関係			講義
14	家族を含めた人間関係			講義
15	地域をつくる人間関係			講義
使用するテキスト 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院			評価方法 レポート 100 点	

科目名 英語 I		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	本田 崇洋	
実務経験教員対象科目		時間数 30時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 看護に必要な英会話の基本を理解する。				DP との関連 DP I -3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	病院における英会話① 医療看護学用語①			講義
2	病院における英会話② 医療看護学用語②			講義
3	病院における英会話③ 医療看護学用語③			講義
4	病院における英会話④ 医療看護学用語④			講義
5	病院における英会話⑤ 医療看護学用語⑤			講義
6	病院における英会話⑥ 医療看護学用語⑥			講義
7	病院における英会話⑦ 医療看護学用語⑦			講義
8	病院における英会話⑧ 医療看護学用語⑧ (1時間)			講義
9	試験 (1時間)			試験
10	病気の症状や健康状態についての日常会話① 医療看護学用語⑨			講義
11	病気の症状や健康状態についての日常会話② 医療看護学用語⑩			講義
12	病気の症状や健康状態についての日常会話③ 医療看護学用語⑪			講義
13	病気の症状や健康状態についての日常会話④ 医療看護学用語⑫			講義
14	病気の症状や健康状態についての日常会話⑤ 医療看護学用語⑬			講義
15	病気の症状や健康状態についての日常会話⑥ 医療看護学用語⑭			講義
16	病気の症状や健康状態についての日常会話⑦ 医療看護学用語⑮ (1時間)			講義
17	試験 (1時間)			試験
使用するテキスト Talking With Your Patients In English 成美堂出版			評価方法 筆記試験 100点	

科目名 英語Ⅱ		配当時期 2 年前期～ 後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間	講義担当者	実務経験
実務経験教員対象科目			本田 崇洋	
事前学習内容 英語Ⅰの学習内容を復習すること。 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 看護場面における、実用的英語力の向上を身にみつける。				DP との関連 DPⅠ－3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	医療・看護学用語①			講義
2	医療・看護学用語②			講義
3	医療・看護学用語③			講義
4	医療・看護学用語④			講義
5	医療・看護学用語⑤			講義
6	医療・看護学用語⑥			講義
7	医療・看護学用語⑦			講義
8	試験（1時間）			試験
9	患者指導（日本語のパフレット作成）			演習
10	患者指導（日本語から英文へ翻訳①）			演習
11	患者指導（日本語から英文へ翻訳②）			演習
12	患者指導（日本語から英文へ翻訳③）			演習
13	患者指導（日本語から英文へ翻訳④）			演習
14	患者指導（日本語から英文へ翻訳⑤）・ 発表準備			演習
15	患者指導 発表（3時間）			演習
16				
使用するテキスト Talking With Your Patients In English 成美堂出版				評価方法 筆記試験 80点 課題 20 点

科目名 異文化理解	配当時期 3 年前期	講義担当者	実務経験
	単位数 1 単位	松江 俊一	
実務経験教員対象科目	時間数 30 時間		
事前学習内容			
事前に配付する資料・映像等に目を通し、自身のこれまでの体験から考えを巡らすこと。			
科目のねらい・授業目標			DP との関連
1 異文化背景を持つ人とのコミュニケーションに影響を与える心理的・社会的要因について学び、異文化に起因する要因がいかなる影響を与えているかを個人、対人、集団、国家、国際レベルで知見を得て「自身の考えを持つ」ことを理解する。			DP I -1 2 3 4
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）			
回	学習内容	方法	
1	イントロダクション 異文化理解⇔自文化理解 健全なコミュニケーション手法	講義	
2	「文化」、「異文化」の定義 異文化理解の意義 見える文化・見えない文化	講義	
3	異文化を認識させる構成要素 行動・視点・環境による文化の違い	講義 演習	
4	個人と異文化コミュニケーション 固定概念 ファイリング、ステレオタイプ 偏見	講義 演習	
5	カルチャーショックと適応過程 U字曲線・W時曲線・らせん型の適応	講義 演習	
6	異文化受容のプロセス 組織としての異文化理解	講義 演習	
7	異文化適応トレーニング	講義 演習	
8	試験(1 時間)	試験	
9	世界の価値観	講義 演習	
10	「日本」再考1 言霊、怨霊信仰、和の精神 穢れ思想 禊、日本文化化	講義	
11	「日本」再考2 神仏習合 デュアルスタンダード ウチとソト	講義	
12	様々な 差別を考える アイデンティティとエスニックグループ	講義 演習	
13	非言語要素を意識する	講義 演習	
14	多文化共生について考える	講義 演習	
15	総括 アサーティブコミュニケーション	講義 演習	
16	試験(1 時間)	試験	
使用するテキスト		評価方法	
配付資料による。		筆記試験 80 点	
参考文献		授業中の課題等 20 点	
授業中に指示する。			

科目名 生化学		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	柴田 公彦	
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
事前学習内容				
シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 人体の構成物質と物質代謝について学び、生体の恒常性について理解する。				DP I -2 DP III -1
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	生化学の概要 糖質① (単糖・オリゴ糖)			講義
2	糖質② (多糖) 糖質代謝① (消化と吸収)			講義
3	糖質代謝② (グルコース分解・糖新生など)			講義
4	糖質代謝③ (ペントースリン酸回路など) 脂質① (脂質とは)			講義
5	脂質② (胆汁酸・リポタンパク質)			講義
6	脂質代謝① (脂質の消化と吸収・脂肪酸の分解・ケトン体の生成・脂肪酸の生合成)			講義
7	脂質代謝② (コレステロールの生合成・プロスタグランジン類の生合成) タンパク質①			講義
8	タンパク質②			講義
9	試験 (1 時間)			試験
10	タンパク質③ タンパク質代謝① (タンパク質の消化と吸収)			講義
11	タンパク質代謝② (α -ケト酸の代謝・尿素の生成)			講義
12	核酸 (核酸とは・塩基・DNA と RNA)			講義
13	核酸代謝 (核酸の合成と分解・ヌクレオチドの合成と分解) 酵素 遺伝情報①			講義
14	遺伝情報② (転写)			講義
15	遺伝情報③ (スプライシング・翻訳)			講義
16	試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト			評価方法	
系看 専門基礎 生化学 医学書院			筆記試験 100 点	

科目名	形態機能学Ⅰ (生命を支えるしくみ)	配当時期	1 年前期	講義担当者		実務経験
		単位数	1 単位	新國 香		
実務経験教員対象科目		時間数	30 時間			
事前学習内容						
細胞について事前に学習しておくこと。 「看護につなげる形態機能学」「看護学生のための 5 分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト 50」の指示された部分について、自己学習してから授業に臨むこと。						
科目のねらい・授業目標						DP との関連
1 生命とは何かを、細胞、恒常性の維持、人体の構成から理解する。						DPⅠ-1
2 恒常性を維持するための物質の流通について、流通の媒体、流通路、流通の原動力から理解する。						
3 息をすることについて、呼吸運動とガス交換から理解する。						
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)						
回	学習内容					方法
1	生命とは① 内部環境の恒常性					講義
2	生命とは② 個体を外界から区別するもの (皮膚・漿膜・粘膜・滑膜) 人体のつくり (組織、器官、系)					講義
3	恒常性を維持するための物質の流通の媒体－血液① 血液の成分と機能					講義
4	恒常性を維持するための物質の流通の媒体－血液② 止血機構 血液型					講義
5	恒常性を維持するための物質の流通の媒体－血液③ 血液の恒常性の維持					講義
6	恒常性を維持するための物質の流通の媒体－血液④ 物質の運搬					講義
7	流通路としての循環系① 体循環と肺循環 心臓の構造					講義
8	流通路としての循環系② 刺激伝導系					講義
9	流通路としての循環系③ 動脈系					講義
10	流通路としての循環系④ 静脈系 リンパ系					講義
11	流通路としての循環系⑤ 血圧の調節					講義
12	息をする① 呼吸器官の構造 呼吸運動のしくみ					講義
13	息をする② 呼吸運動の調節 肺活量					講義
14	息をする③ ガス交換					講義
15	息をする④ ガスの運搬 (1 時間)					講義
16	筆記試験 (1 時間)					試験
使用するテキスト				評価方法		
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院				筆記試験 50 点		
看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社				事前テスト 20 点		
看護学生のための 5 分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト 50 SENKOSHA				レポート 30 点		

科目名 形態機能学Ⅱ (人体の調節機構とからだの動き)		配当時期 1年前期	講義担当者 松崎 安代	実務経験
実務経験教員対象科目		単位数 1単位 時間数 30時間		
事前学習内容 「看護につなげる形態機能学」「看護学生のための5分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト50」の指示された部分について、自己学習してから授業に臨むこと。				
科目のねらい・授業目標 1 恒常性維持のための調節機構について、神経性調節、液性調節、ストレスとの関連から理解する。 2 動くことについて、姿勢、骨格筋運動、日常生活動作から理解する。				DPとの関連 DP I-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	恒常性維持のための調節機構の概要 感覚器系① みる			講義
2	恒常性維持のための調節機構の概要 感覚器系② 深部感覚			講義
3	神経性調節① 神経組織の仕組み 神経伝達のメカニズム			講義
4	神経性調節② 大脳皮質 大脳基底核			講義
5	神経性調節③ 脊髄の機能 神経伝達経路			講義
6	神経性調節④ 脳神経 脊髄神経			講義
7	神経性調節⑤ 自律神経			講義
8	神経性調節⑥ 神経系調節のまとめ（1時間）			講義
9	液性調節① 液性調節 ホルモンの作用機序			講義
10	液性調節② ホルモンの働き 恒常性維持			講義
11	動く① 姿勢と立位 神経から筋への指令と筋の収縮 随意運動と不随意運動			講義
12	動く② 骨の構造と機能 骨形成と骨吸収 関節の種類と構造			講義
13	動く③ 脊柱、肩、肘を動かす骨と筋肉			講義
14	動く④ 手、股関節を動かす骨と筋 骨盤底筋群			講義
15	動く⑤ 膝、足を動かす骨と筋 日常生活での基本の動き（歩く、つまむ、表情）			講義
16	筆記試験			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 看護につなげる形態機能学 メディカルフレンド社 看護学生のための5分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト50 SENKOSHA			評価方法 筆記試験 50点 事前テスト 20点 レポート 30点	

科目名	形態機能学Ⅲ (日常生活の機能)	配当時期	1 年前期	講義担当者	平澤 由希子	実務経験
		単位数	1 単位			
実務経験教員対象科目		時間数	30 時間			
事前学習内容						
「看護につなげる形態機能学」「看護学生のための5分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト 50」の指示された部分について、自己学習してから授業に臨むこと。						
科目のねらい・授業目標					DP との関連	
1 食べることにについて、食欲や食行動、消化と吸収から理解する。 2 トイレに行くことにについて、排尿、排便から理解する。 3 情報を得るための見る・聞く・バランスを保つ・におう・皮膚の機能について、情報を発信するための話す機能から理解する。 4 眠ることにについて、眠り、身体のリズム、睡眠の生理から理解する。					DP I -1	
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)						
回	学習内容					方法
1	感じる① 話す					講義
2	感じる② 聞く バランスを保つ					講義
3	感じる③ 皮膚の構造と機能 痛みのメカニズム 体温調節					講義
4	眠る レム睡眠・ノンレム睡眠 サーカディアンリズム					講義
5	食べる① 口腔の構造と機能 食欲 咀嚼 味わう におう					講義
6	食べる② 咽頭・食道の構造と機能 嚥下の仕組み					講義
7	食べる③ 胃の構造と機能					講義
8	食べる④ 小腸の構造と機能					講義
9	食べる⑤ 膵臓・胆嚢の構造と機能					講義
10	食べる⑥ 肝臓の構造と機能					講義
11	トイレに行く① 大腸の構造と機能 排便の仕組み					講義
12	トイレに行く② 泌尿器系の役割 (1 時間)					講義
13	トイレに行く③ 腎臓・糸球体・尿細管の構造と機能					講義
14	トイレに行く④ 体液調整の機構 (尿量の調節、酸塩基平衡)					講義
15	トイレに行く⑤ 排尿の仕組み					講義
16	筆記試験 (1 時間)					試験
使用するテキスト				評価方法		
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院				筆記試験 50 点		
看護につなげる形態機能学 メディカルフレンド社				事前テスト 20 点		
看護学生のための5分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト 50 SENKOSHA				レポート 30 点		

科目名	形態機能学Ⅳ (生殖・発生と老化のしくみと 人体の構造)	配当時期	2 年前期	講義担当者	
		単位数	1 単位	佐藤 壽子 緒方 仁美	
実務経験教員対象科目		時間数	30 時間		
事前学習内容					
「看護につなげる形態機能学」「看護学生のための 5 分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト 50」の指示された部分について、自己学習してから授業に臨むこと。 形態機能学Ⅰ～Ⅲの学習内容を復習し、全身の各器官がどのように人体を構成しているかをレポートにまとめ、提出する。					
科目のねらい・授業目標					DP との関連
1 性と生殖に関する機構について、子どもをうむメカニズムから理解する。 2 からだ全体を成長と老化の視点から統合してとらえる。 3 からだ全体を、それぞれの機能の統合体としてとらえる。					DPⅠ-1
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)					
回	学習内容				方法
1	子どもをうむ① 男性生殖器の構造と機能				講義
2	子どもをうむ② 女性生殖器の構造と機能				講義
3	子どもをうむ③ 性ホルモンと性周期				講義
4	子どもをうむ④ 性交と受精				講義
5	子どもをうむ⑤ 胎児の発生 出産				講義
6	子どもをうむ⑥ 成長と発達 老化 更年期				講義
7	筆記試験 (1 時間)				試験
8	統合体としての人体の構造① 系統的解剖見学オリエンテーション				講義
9	統合体としての人体の構造② 人体を構成する各器官の統合				演習
10	統合体としての人体の構造③ 人体の立体像づくり				演習
11	統合体としての人体の構造④ 人体の立体像づくり				演習
12	統合体としての人体の構造⑤ グループ発表				演習
13	統合体としての人体の構造⑥ 系統的解剖見学 (7 時間)				演習
14					
15					
16					
使用するテキスト				評価方法	
系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社 看護学生のための 5 分間テスト 解剖生理学レベルアップテスト 50 SENKOSHA				【子どもをうむ】 筆記試験 25 点 事前テスト 10 点 レポート 15 点 【統合体としての人体の構造】 パフォーマンス評価 50 点 ※ただし、系統的解剖見学の出席を 単位認定の条件とする。	

科目名 薬理学		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	佐藤 かおり	
実務経験教員対象科目		時間数 30時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解する。				DP との関連 DP I -2 DP III -1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	薬理学の基礎知識① 薬物と薬剤 薬物管理と法律			講義
2	薬理学の基礎知識② 薬物に対する生体の反応（分布、吸収、代謝、排出）			講義
3	薬理学の基礎知識③ 薬物に対する個人の反応と対処行動（薬効に影響を及ぼす要因）			講義
4	薬理学の基礎知識④ 薬物治療に伴って生じる問題と対処行動（薬物の有害事象、薬物アレルギー、薬物依存）			講義
5	薬理学の基礎知識⑤ 薬物中毒（急性薬物中毒に対する処置、毒物の排除、薬物依存）			講義
6	薬理学の基礎知識⑥ 与薬方法と薬理作用（内服、注射、吸入、直腸内適用、各種製剤） 保存方法			講義
7	主な治療薬とその特徴① 麻薬、外用薬、消炎鎮痛薬、下剤、救急時に使用される薬物、漢方薬、検査薬・診断薬			講義
8	試験（1時間）			試験
9	主な治療薬とその特徴② 抗感染症薬			講義
10	主な治療薬とその特徴② 抗癌剤			講義
11	主な治療薬とその特徴③ 抗不整脈薬、抗血栓薬			試験
12	主な治療薬とその特徴④ 強心剤、狭心症治療薬			講義
13	主な治療薬とその特徴⑤ 降圧剤、昇圧剤、利尿剤			講義
14	主な治療薬とその特徴⑥ 消化性潰瘍治療薬、中枢神経作用薬			講義
15	主な治療薬とその特徴⑦ 副腎皮質ステロイド薬、抗アレルギー薬、糖尿病治療薬			講義
16	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 治療薬マニュアル 2022 医学書院			評価方法 筆記試験 100点	

科目名 微生物学		配当時期 1 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 1 単位	金 容必 新國 香	
実務経験教員対象科目		時間数 30 時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 微生物の特徴と生体におよぼす影響について学び、患者の安全や予防の重要性を理解する。 2 科学的根拠に基づいた感染予防を習得する。				DP との関連 DP I - 2 DP III - 1 3
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	微生物とは 微生物の分布と人体 人と病原体の関り 微生物の種類と特徴：細菌 真菌 原虫 ウイルス			講義
2	病原微生物の感染経路と潜伏期間 病原細菌 病原真菌 病原原虫 病原ウイルス 細菌について①			講義
3	細菌について② 病原微生物の感染経路と潜伏期間			講義
4	病原真菌 DNA ウイルス			講義
5	RNA ウイルス①			講義
6	RAN ウイルス②			講義
7	試験（1 時間）			試験
8	生体の防御機構① 非特異的生体防御機構			講義
9	生体の防御機構② 特異的生体防御反応			講義
10	生体の防御機構④ 生体防御系の発生・発達			講義
11	感染予防① 病原微生物に対する予防処置・治療 滅菌と消毒 予防接種 化学療法と薬剤耐性菌 感染症法 滅菌法			講義
12	感染予防② 感染の蔓延を防ぐ手段 感染予防対策 院内感染と対策（薬剤耐性菌 AMR 多剤耐性菌）			講義
13	感染予防③ 感染管理の基礎知識 スタンダードプリコーション			講義
14	感染予防④ 手洗い 個人防護用具の選択と着脱			講義・演習
15	感染予防⑤ 手洗い 個人防護用具の選択と着脱の実際			演習
16	試験（1 時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 臨床栄養学		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	黒田 彩子	
実務経験教員対象科目		時間数 30時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 栄養の基礎的知識について学び、正しい食生活とその意義を理解する。 2 患者指導に役立てるための食事療法の実際を理解する。				DPとの関連 DPⅠ-2 DPⅢ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	必須栄養素の不足とアンバランス 三大栄養素：炭水化物、脂質、タンパク質			講義
2	栄養素の種類と働き① ビタミン類、ミネラル、食物繊維、水			講義
3	栄養素の種類と働き② エネルギー代謝① 代謝とは：基礎代謝、生活活動代謝、摂取カロリーの過不足、肥満と い瘦			講義
4	エネルギー代謝② 食事と食品：食品構成と各種食品の特徴、食品群の種類 食品の組み合 わせ、各種食品の特徴、健康をめざす新しい食品群			講義
5	栄養状態の判定			講義
6	ライフステージと栄養①：成長期、成人期			講義
7	ライフステージと栄養②：妊娠・授乳期、老年期			講義
8	食事療法① 病人食の種類と形態、食事療法の概要			講義
9	食事療法② 食事療法の概要			講義
10	食事療法③ 食事指導：高血圧			講義
11	食事療法④ 食事指導：糖尿病、胃潰瘍			講義
12	消化と吸収（1時間）			講義
13	調理実習① 高血圧食（3時間）			演習
14	調理実習② 糖尿病食（3時間）			演習
15	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 医学書院			評価方法 筆記試験 100点	

科目名 病理学総論		配当時期	1 年前期～ 後期	講義担当者	浅野 重之 迎田 美香	実務経験
		単位数	1 単位			
		時間数	30 時間			
実務経験教員対象科目						
事前学習内容						
シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。						
科目のねらい・授業目標						DP との関連
1 生体の死に至る身体内部の変化について理解する。						DP - 1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）						
回	学習内容					方法
1	病理学への招待 病理学と他の科目の関連性					講義
2	疾病の成り立ちと病因① 疾病とは、疾病とホメオスタシス、病因（内因、外因）					講義
3	基本的な病因とその成り立ち① 細胞の障害：退行性病変（萎縮、変性、壊死、アポトーシス）と進行性病変肥大と過形成、再生と修復					講義
4	基本的な病因とその成り立ち② 生体の障害：循環障害、臓器不全、局所性・全身性の循環障害、リンパの循環障害、腫瘍（腫瘍の定義と分類、腫瘍の発生病理、悪性腫瘍の定義と進行） 異常状態に影響する個体の条件① 代謝異常：糖代謝異常、脂質代謝異常、たんぱく質および核酸代謝異常					講義
5	基本的な病因とその成り立ち③ 感染：炎症の原因、急性炎症と慢性炎症、創傷治癒過程の炎症、炎症時の発熱。 異常状態に影響する個体の条件② 免疫反応とアレルギー：自己免疫疾患、免疫不全（免疫不全症候群）					講義
6	異常状態に影響する個体の条件③ 先天異常：染色体の異常、単一遺伝子の異常、多数遺伝子による疾患、先天性異常を起こす環境因子、奇形とアポトーシス、ミトコンドリア遺伝子の異常による疾患 老化と死：細胞の老化と個体の老化、加齢に伴う諸臓器の変化、個体の死					講義
7	試験（1 時間）					試験
8	病態の理解（1 時間）					講義
9	病態の振り返り① 脳梗塞					講義・演習
10	病態の振り返り② 脳梗塞					講義・演習
11	病態の振り返り③ 糖尿病					講義・演習
12	病態の振り返り④ 白血病					講義・演習
13	病態の振り返り⑤ 心不全					講義・演習
14	病態の振り返り⑥ 心不全					講義・演習
15	病態の振り返り⑦ 慢性閉塞性肺疾患					講義・演習
16	病態の振り返り⑧ 肝炎、肝硬変					講義・演習
使用するテキスト					評価方法	
系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院					筆記試験 70 点	
新体系 看護学全書 病態と診療の基礎 メヂカルフレンド社					課題 30 点	
重要疾患・症状ドリル メヂカルフレンド社						

科目名 病態治療論 I (診断基準と治療)	配当時期 1 年前期 ～後期 単位数 1 単位 時間数 30 時間	講義担当者 医師 臨床検査技師 診療放射線技師 臨床工 学技士 臨床心理士 理 学療法士 作業療法士 言語聴覚士	実務経験
実務経験教員対象科目			
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。			
科目のねらい・授業目標 1 疾病を診断する主な検査および疾病の回復を促進する各治療の原理を理解する。			DP との関連 DP I-1 2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)			
回	学習内容	方法	
1	疾病の診断の基本と方法① 医療面接：問診 身体診察：視診、触診、聴診、打診	講義	
2	疾病の診断の基本と方法② 生体機能検査：内視鏡検査 心理・精神機能検査	講義	
3	疾病の診断の基本と方法③ 検体検査：化学検査、血液検査 免疫・血清検査、細菌検査、病理組織検査	講義	
4	疾病の診断と基本と方法④ 輸血の管理 生理機能検査：心電図、肺機能検査 画像検査：超音波検査	講義	
5	疾病の診断の基本と方法⑤ 画像検査：単純撮影、造影検査（血管・消化管・脊髄）、CT、MRI、シンチグラム	講義	
6	疾病に対する薬物療法以外の治療① 手術とは	講義	
7	疾病に対する薬物療法以外の治療② 麻酔とは	講義	
8	試験 (1 時間)	試験	
9	ME 機器 原理と使用上の問題 主な ME 機器	講義	
10	リハビリテーションの基本的な考え方 評価	講義	
11	リハビリテーションの主な療法 理学療法	講義	
12	リハビリテーションの主な療法 作業療法	講義	
13	リハビリテーションの主な療法 言語療法①	講義	
14	リハビリテーションの主な療法 言語療法②	講義	
15	放射線療法とは	講義	
16	試験 (1 時間)	試験	
使用するテキスト 新体系 看護学全書 病態と診療の基礎 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 重要疾患ドリル メヂカルフレンド社 重要症状ドリル メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 病態治療論Ⅱ (呼吸・循環機能の障害、体温調節 障害、造血・免疫機能の障害)		配当時期 1 年前期 ～後期	講義担当者 呼吸器外科医師 循環器内科医師 血液内科医師	実務経験
実務経験教員対象科目		単位数 1 単位 時間数 30 時間		
事前学習内容 形態機能学Ⅰと病理学総論の学習内容を復習すること。				
科目のねらい・授業目標 1 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病（生命維持機能の障害）の特性について理解する。				DP との関連 DPⅠ－1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	呼吸機能障害に関連する主な症状 咳嗽、喀痰・血痰、呼吸困難、喘鳴、チアノーゼ			講義
2	呼吸機能障害① 炎症性疾患：気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎			講義
3	呼吸機能障害② 肺結核、塵肺、肺循環障害：肺塞栓症、肺高血圧症			講義
4	呼吸機能障害③ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、呼吸不全			講義
5	呼吸機能障害④ 気胸、無気肺、腫瘍：肺癌、中皮腫、			講義
6	試験（1 時間）			試験
7	循環機能障害に関連する主な症状：胸痛、動悸、浮腫、ショック（心原性・出血性・血液分 布異常性）体温調節異常 熱中症			講義
8	循環機能障害① 虚血性心疾患：狭心症、心筋梗塞			講義
9	循環機能障害② 動脈硬化、高血圧症（本態性・二次性）、起立性低血圧、不整脈			講義
10	循環機能障害③ 弁膜症、心内膜炎、心筋症、心タンポナーデ、心不全			講義
11	循環機能障害④ 大動脈瘤・大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、静脈瘤			講義
12	造血機能に関する主な症状とメカニズム 貧血、出血性素因			講義
13	造血機能の異常① 貧血：鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、 二次性貧血			講義
14	造血機能の異常② 白血球減少症、造血器腫瘍：白血病、骨髓異形成症候群、悪性リンパ腫、 多発性骨髄腫			講義
15	造血機能の異常③ 出血性疾患：突発性血栓症血小板紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、 播種性血管内凝固症候群(DIC)、血友病 免疫機能の異常：HIV 感染症			講義
16	試験（1 時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 重要疾患ドリル メヂカルフレンド社 重要症状ドリル メヂカルフレンド社			評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 病態治療論Ⅲ (脳機能の障害、感覚機能の障害)		配当時期	1 年前期 ～後期	講義担当者	実務経験
実務経験教員対象科目		単位数	1 単位	脳外科医師 耳鼻咽喉科医師 皮膚科医師 他	
		時間数	30 時間		
事前学習内容 形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学習内容を復習すること。					
1 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病（脳機能・感覚機能の障害）の特性について理解する。					DP との関連 DP1-1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）					
回	学習内容				方法
1	脳機能低下に関連する主な症状① 意識障害、高次脳機能障害（失語症・失行・失認）運動機能障害（運動麻痺・運動失調・不随意運動・痙攣）感覚機能障害				講義
2	脳機能低下に関連する主な症状② 頭蓋内圧亢進、頭痛、嘔気・嘔吐、うつ血乳頭、病的反射、排泄障害、嚥下障害				講義
3	脳血管系の循環障害① クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞				講義
4	脳血管系の循環障害② もやもや病、一過性脳虚血発作、頭部外傷（急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫、頭蓋骨の損傷）				講義
5	脳圧亢進頭蓋内圧亢進症を伴う疾患 脳腫瘍、髄膜炎、水頭症、脳炎				講義
6	脳変性・脱髄性の疾患 多発性硬化症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 脊髄小脳変性症、				講義
7	運動ニューロン・筋に変性をおこす疾患 筋ジストロフィー、重症筋無力症 ギランバレー症候群				講義
8	試験（1 時間）				試験
9	眼の障害① 近視、遠視、斜視、結膜炎、流行性角結膜炎				講義
10	眼の障害② 網膜症、網膜剥離、白内障、緑内障、虹彩炎、虹彩毛様体炎				講義
11	耳鼻咽喉頭障害① 難聴、眩暈、嘔声、鼻出血、鼻炎、副鼻腔炎、花粉症				講義
12	耳鼻咽喉頭障害② 内耳・中耳・外耳道炎、メニエール病、顔面神経麻痺				講義
13	耳鼻咽喉頭障害③ 咽頭・喉頭癌、扁桃肥大、咽頭・扁桃炎、臭覚・味覚障害				講義
14	皮膚・粘膜の異常に関連する主な症状 発疹、膿疱疹、掻痒感 皮膚・粘膜の障害① 湿疹、接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹				講義
15	皮膚・粘膜の障害② 帯状疱疹、皮膚カンジダ、疥癬、熱傷、褥瘡、皮膚癌、悪性黒色腫、蜂窩織炎				講義
16	試験（1 時間）				試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 脳神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 耳鼻咽喉 医学書院 重要疾患ドリル メヂカルフレンド社 重要症状ドリル メヂカルフレンド社				評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 病態治療論Ⅳ (内分泌・代謝機能の障害、運動機能の障害、歯と口腔の障害)		配当時期 1年後期	講義担当者 内分泌内科医師 整形外科医師 口腔外科医師	実務経験
実務経験教員対象科目		単位数 1単位 時間数 30時間		
事前学習内容 形態機能学Ⅱ・Ⅲの学習内容を復習すること。				
科目のねらい・授業目標 1 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病（内部環境調節機能の障害、運動機能の障害、歯と口腔の障害）の特性について理解する。				DPとの関連 DPⅠ-1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	内分泌・代謝機能の低下・亢進① 間脳下垂体疾患：先端巨大症、尿崩症			講義
2	内分泌・代謝機能の低下・亢進② 下垂体腫瘍 甲状腺疾患：甲状腺機能亢進・低下症、甲状腺炎、甲状腺腫瘍			講義
3	内分泌・代謝機能の低下・亢進③ 副甲状腺疾患：副甲状腺機能亢進・低下症 副腎疾患：アルドステロン症、クッシング症候群、アジソン病 褐色細胞腫			講義
4	内分泌・代謝機能の低下・亢進④ 代謝疾患：糖尿病			講義
5	内分泌・代謝機能の低下・亢進⑤ 代謝疾患：糖尿病			講義
6	内分泌・代謝機能の低下・亢進⑥ 代謝疾患：脂質異常、メタボリックシンドローム、肥満			講義
7	内分泌・代謝機能の低下・亢進⑦ 代謝疾患：高尿酸血症、痛風			講義
8	試験（1時間）			試験
9	運動機能障害に関する主な症状 形態の異常・奇形・変形、関節運動の異常・関節拘縮・強直・動揺関節、異常歩行または跛行			講義
10	運動機能障害① 骨折、脱臼、捻挫、骨粗鬆症 骨腫瘍（骨肉腫）脊髄損傷 変形性関節症、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症			講義
11	運動機能障害② 変形性脊椎症、化膿性骨髓炎、発育性股関節形成不全、腱断裂、膝内障、圧迫性神経障害（手根管症候群、肘部管症候群 橈骨神経障害、坐骨神経障害、腓骨神経障害）			講義
12	運動機能障害③ 関節炎、骨形成不全症、くる病			講義
13	運動機能障害④ ギプス巻の実際			演習
14	歯と口腔の障害① う歯、歯周炎、歯肉炎、慢性辺縁性歯周病			講義
15	歯と口腔の障害② 顎関節脱臼、口腔癌 舌癌、口唇裂、口蓋裂			講義
16	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 歯・口腔 医学書院 重要疾患ドリル メヂカルフレンド社 重要症状ドリル メヂカルフレンド社			評価方法 筆記試験 100点	

科目名 病態治療論Ⅴ (消化器、胆・肝・膵、体液の 調整障害、自己免疫の障害)		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
実務経験教員対象科目		単位数 1単位 時間数 30時間	消化器外科医師 消化器内科医師 泌尿器科医師 他	
事前学習内容 形態機能学Ⅲの学習内容を復習しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病（栄養の摂取・吸収・代謝・排泄の障害および体液の調節障害、自己免疫の障害）の特性について理解する。				DP との関連 DP I - 1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	消化管粘膜の障害と通過障害：食欲不振、嘔気・嘔吐、腹痛、吐血、下血、嚥下困難、便秘、下痢、吃逆			講義
2	消化器機能障害① 逆流性食道炎、胃炎、ポリープ（胃・腸）、胃潰瘍、ヘリコバクターピロリ感染症、十二指腸潰瘍、虫垂炎			講義
3	消化器機能障害② 潰瘍性大腸炎、クローン病、			講義
4	消化器機能障害③ ヘルニア、腹膜炎、痔ろう・裂肛、イレウス			講義
5	消化器機能障害④ 消化管腫瘍：食道がん、胃がん（ダンピング症候群含む）			講義
6	消化器機能障害⑤ 消化管腫瘍：結腸がん、直腸がん（人工肛門造設術含む）			講義
7	試験（1時間）			試験
8	移植			講義
9	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害① 症状とメカニズム：黄疸、腹水 感染による疾患：膵炎、肝炎、胆嚢炎			講義
10	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害② 肝硬変・食道静脈瘤、胆石症、胆管炎、脂肪肝、アルコール性肝炎			講義
11	肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害③ 腫瘍：肝がん、膵がん、胆嚢がん、胆管がん			講義
12	体液の調節障害① 水・電解質異常：浮腫、脱水、低Na血症、低K血症、高K血症、低Ca血症、高Ca血症 酸塩基平衡の異常：アシドーシス、アルカローシス			講義
13	体液の調節障害② 尿の生成と排泄の障害：排尿障害、尿失禁、尿路結石症、尿路感染症（膀胱炎・糸球体腎炎）、膀胱がん、尿管がん			講義
14	体液の調節障害③ 尿の生成と排泄の障害：腎不全、ネフローゼ症候群			講義
15	免疫機能障害① 自己免疫疾患：慢性関節リウマチ、SLE、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発筋炎、皮膚筋炎 アレルギー性疾患：アナフィラキシーショック			講義
16	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 重要疾患ドリル メデカルフレンド社 重要症状ドリル メデカルフレンド社			評価方法 筆記試験 100点	

科目名	病態治療論Ⅵ (生命の維持と機能障害、精神の障害)	配当時期	2 年前期～ 後期	講義担当者 泌尿器科医師 産婦人科医師 外科医師 精神科医師 他	実務経験
		単位数	1 単位		
		時間数	30 時間		
実務経験教員対象科目					
事前学習内容 形態機能学Ⅳと精神看護学概論の学習内容を復習しておくこと。					
科目のねらい・授業目標 1 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病（生命維持機能の障害・精神障害）の特性について理解する。					DP との関連 DP1 - 1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）					
回	学習内容				方法
1	男性生殖器の異常① 性機能障害、包茎、停留精巣、精巣上体炎、不妊症				講義
2	男性生殖器の異常② 前立腺炎、前立腺肥大				講義
3	男性生殖器の異常③ 精巣腫瘍、前立腺がん				講義
4	思春期の特徴と成熟の障害：月経の異常 女性生殖器の異常① 性器出血、帯下の異常、性感染症				講義
5	女性生殖器の異常② 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫、更年期障害、不妊症				講義
6	女性生殖器の異常③ 子宮体がん、子宮頸がん、卵巣がん				講義
7	女性生殖器の異常④ 乳腺炎、乳腺症、乳がん				講義
8	試験（1 時間）				試験
9	精神機能の障害① 統合失調症				講義
10	精神機能の障害② 統合失調症、気分障害（うつ病、双極性障害）、パーソナリティ障害、てんかんの精神症状				講義
11	精神機能の障害③ 器質性精神障害：アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、せん妄				講義
12	精神機能の障害④ 精神作用性物質関連障害：アルコール依存症、麻薬中毒、覚せい剤中毒、睡眠薬乱用				講義
13	精神機能の障害⑤ 心身症、神経性症障害、ストレス関連性障害（パニック障害、PTSD、適応障害）				講義
14	精神機能の障害⑥ 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群：摂食障害、不眠症、性機能障害、自律神経失調症				講義
15	精神機能の障害⑦ 神経発達障害、精神遅滞（知的障害）、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害（ADHD）				講義
16	試験（1 時間）				試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 重要疾患ドリル メディカルフレンド社 重要症状ドリル メディカルフレンド社				評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 病態治療論Ⅶ (小児に特有な健康障害、 妊娠・分娩・産褥の異常)		配当時期 2年後期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 小児科内科医師 小児科外科医師 産婦人科医師 他	実務経験
実務経験教員対象科目				
事前学習内容 形態機能学Ⅳ、小児看護学概論、母性看護学概論の学習内容を復習しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 小児に特有な健康障害と妊娠・分娩・産褥の異常について理解する。				DPとの関連 DPⅠ-1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	小児に特有な健康障害と治療① 突然死の成因と危険因子 呼吸器疾患：かぜ症候群、肺炎			講義
2	小児に特有な健康障害と治療② ハイリスク新生児の特徴、先天代謝異常、染色体異常、呼吸窮迫症候群			講義
3	小児に特有な健康障害と治療③ 循環器疾患：先天性心疾患：心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、アイゼンメンジャー症候群、動脈管開存症、ファロー四徴症、先天性心疾患における心不全症状 川崎病			講義
4	小児に特有な健康障害と治療④ 感染症：ウイルス性感染症、細菌性感染症			講義
5	小児に特有な健康障害と治療⑤ 内分泌疾患：1型糖尿病、成長ホルモン分泌不全性低身長症			講義
6	小児に特有な健康障害と治療⑥ 免疫・アレルギー性疾患、膠原病：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、若年性特発性関節炎			講義
7	小児に特有な健康障害と治療⑦ 神経疾患：痙攣の基礎疾患、脳性麻痺、てんかん			講義
8	小児に特有な健康障害と治療⑧ 腎疾患：ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、紫斑病性腎炎、夜尿症			講義
9	小児に特有な健康障害と治療⑨ 血液疾患：急性リンパ性白血病、特発性血小板減少性紫斑病、血友病、リンパ腫			講義
10	試験（1時間）			試験
11	小児外科疾患① 口蓋裂・口唇裂、ウィルムス腫瘍、先天性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、先天性胆道閉鎖症、食道閉鎖、横隔膜ヘルニア			講義
12	小児外科疾患② 鼠径ヘルニア、神経芽細胞腫、腸重積症、鎖肛、停留精巣、虫垂炎			講義
13	妊娠期の異常と治療：不育症、流産・早産、感染症、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠悪阻			講義
14	分娩期の異常と治療：前期破水、帝王切開術、分娩時異常出血、胎児機能不全、陣痛異常（微弱陣痛、過強陣痛）			講義
15	産褥期の異常と治療：子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産後精神障害			講義
16	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児臨床看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 医学書院 重要疾患ドリル メヂカルフレンド社 重要症状ドリル メヂカルフレンド社			評価方法 筆記試験 100点	

科目名 公衆衛生学	配当時期 2 年前期～ 後期	講義担当者 新家 利一 佐藤 壽子	実務経験
	単位数 2 単位 時間数 30 時間		
実務経験教員対象科目			
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておく。			
科目のねらい・授業目標 1 公衆衛生の基本内容を理解する。 2 生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動について理解する。			DP との関連 DPⅣ-1 2 DPⅤ-2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）			
回	学習内容	方法	
1	公衆衛生の概念（衆衛生の領域、活動の特徴、プライマリヘルスケア、健康の概念、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ）	講義	
2	健康と環境 疫学的方法による健康理解①	講義	
3	健康と環境 疫学的方法による健康理解②	講義	
4	感染症とその予防① 感染症の成立要因、感染症の流行現象、感染症予防の基本、感染症法、薬剤耐性菌感染症、人畜共通感染症	講義	
5	感染症とその予防② 院内感染とその予防、予防接種、結核予防、新型インフルエンザ、HIV 感染/AIDS と性感染症	講義	
6	食品保健と栄養① 地球環境、食品管理および家庭用品	講義	
7	食品保健と栄養② ごみ・廃棄物、住環境	講義	
8	試験（1 時間）	試験	
9	健康教育とヘルスプロモーション	演習	
10	成人保健	講義	
11	高齢者保健	演習	
12	難病対策	演習	
13	精神保健福祉	講義	
14	母子保健、学校保健、	講義	
15	産業保健、地域保健活動	講義	
16	試験（1 時間）	試験	
使用するテキスト わかりやすい公衆衛生学 ノーヴェルヒロカワ		評価方法 筆記試験 100 点	

科目名 社会福祉		配当時期 2 年前期	講義担当者	実務経験
		単位数 2 単位 時間数 30 時間	鎌田 真理子	
実務経験教員対象科目				
事前学習内容				
シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DP との関連
1 社会保障の理念と基礎的な制度の考え方を理解する。				DPIV-1 2
2 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解する。				DP V-2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	社会保障の理念、理念、目的・機能 現代社会の変化			講義
2	現代社会の変化 (人権・憲法第 25 条、倫理、ノーマライゼーション) ソーシャルワークの視点、ASD とは			講義
3	医療保障① 地域包括ケアシステム 社会保障・税番号制度 (マイナンバー)			講義
4	医療保障② 情報公開・地方分権・参加、社会保障給付費、社会保障制度改革 自閉症① (成人のタイプ別理解)			講義
5	社会保険制度① 介護保障			講義
6	社会保険制度② 介護保障			講義
7	社会保険制度③ 所得保障 自閉症②			講義
8	社会保険制度④ 所得保障			講義
9	社会保険制度⑤ 公的扶助			講義
10	社会福祉諸法の理念と変遷① 社会福祉の理念と変遷			講義
11	社会福祉諸法の理念と変遷②			講義
12	社会福祉行政① 保健福祉計画 (子ども・子育てプラン、基本計画と障害者プラン)			講義
13	社会福祉行政② 社会福祉の民間活動			講義
14	社会福祉行政③ 国、地方公共団体の行政と組織およびマンパワー 社会福祉の歴史①			講義
15	社会福祉の歴史② 老人保健福祉行政の展開 (1 時間)			講義
16	試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト			評価方法	
系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院 福祉・保育小六法 株式会社みらい			筆記試験 100 点	

科目名 関係法規		配当時期 2年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	湊 一将 他	
実務経験教員対象科目		時間数 15時間		
事前学習内容 社会福祉の学習内容を復習しておくこと。 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能の基本的な法律を理解する。				DPとの関連 DPIV-1 2 DPV-2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	法規の概念（法規、衛生法規、厚生行政の仕組み）			講義
2	憲法総論			講義
3	保健師助産師看護師法（目的・定義、免許、業務、守秘義務、業務従事者届）			講義
4	医療関係法規（医療法、医師法、歯科医師法、薬剤師法、診療放射線技師法、臨床検査技師法等に関する法律、理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法、社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法、栄養士法）			講義
5	医療サービスの供給体制（医療計画、医療施設の機能、救急医療の充実、診療記録・情報公開、在宅医療、訪問看護ステーション、助産所、医療品と医療用具の取り扱い、毒薬・劇薬の取り扱い、医療安全、地域包括支援センター）			講義
6	医療過誤についての法的対応			講義
7	労働関係に関する法律（労働基準法、育児休業・等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律、看護師等の人材確保の促進に関する法律）			講義
8	試験（1時間）			試験
使用するテキスト 健康支援と社会保障制度（4） メディカ出版 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 医学書院			評価方法 筆記試験 100点	

科目名 医療と生活		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	草野 ちづ	
実務経験教員対象科目		時間数 30時間		
事前学習内容				
いわき市の暮らし、地域健康支援の学習内容を復習すること。 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標				DPとの関連
1 保健医療に携わるものとして、今日の医療の現状について理解する。				DPⅣ－1 2
2 最新の医療について知り、生命、医療の倫理を理解する。				DPⅤ－2
3 医療、看護を受ける人間の心と行動を理解する。				
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	医療と看護の原点 命について考える、健康とは			講義
2	健康の指標① 人口動態統計 健康状態と受療率 母子保健 成人保健			講義
3	健康の指標② 高齢者保健 精神保健統計			講義
4	医療の歩みと医療観の変遷 医師中心の医療から患者中心の医療へ			講義
5	私たちの生活と医療① 受療行動			講義
6	私たちの生活と医療② 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政			講義
7	私たちの生活と医療③ 疾病の一次予防と健康増進			講義
8	私たちの生活と医療④ 少子高齢化社会と世代間のきずな			講義
9	私たちの生活と医療⑤ 障害者のノーマライゼーション			講義
10	私たちの生活と医療⑥ 心の健康と精神医療			講義
11	いわき市における地域医療構想			講義
12	現代医療の最前線と新たな課題① 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ			講義
13	現代医療の最前線と新たな課題② 生命倫理と臨床倫理学の展開			講義
14	現代医療の最前線と新たな課題③ インフォームドコンセントと意思決定（1時間）			講義
15	現代医療の最前線と新たな課題④ 医療情報の開示と診療録			講義
16	試験（1時間）			試験
使用するテキスト			評価方法	
系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 医学書院			筆記試験 100点	

科目名 いわき市の暮らし (暮らしと暮らしが健康に与える影響)		配当時期 1 年前期	講義担当者 八木 美恵子	実務経験 看護師
実務経験教員対象科目		単位数 1 単位 時間数 30 時間		
事前学習内容 学生自身や家族の暮らし、暮らす地域の環境について振り返り臨む				
科目のねらい・授業目標 1 いわきで暮らす人とその暮らしを理解する。 2 暮らしが健康に与える影響を理解する。				DP との関連 DP I -1 2 3 4 DPIV-1 DP V-2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	暮らしということ① 暮らしの GW (自分と家族、身近な人の暮らし、生活環境について)			講義・演習
2	地区踏査に向けての活動計画 (4時間) 人口動態 (総人口、出生数、年齢別人口、世帯数)、			演習
3	地域の歴史・文化、医療・保健・福祉機関など 地区踏査 OR			
4	地区踏査 1 回目ー地域環境の理解ー (4時間) 歴史や文化、自然環境、コミュニティの祭りや行事などの地域特性			演習
5	産業、観光、労働、教育機関や公民館、公共交通機関や道路状況、保健・医療・福祉機関			
6	地区踏査のまとめ 1 回目の地区踏査から見えてきたこと 環境の理解から、踏査地域での生活をイメージする 2 回目の地区踏査に向け、インタビュー内容の検討			演習
7	地区踏査 2 回目ーいわき市に暮らす人と暮らしの理解ー (4時間)			演習
8	民生委員や区長へのインタビュー 地域住民への聞き取り			
9	地区踏査のまとめ (3 時間)			演習
10				
11	地区踏査の発表 (4 時間)			演習・講義
12	暮らしということ② 子どもを生み育てる、学ぶ、働く、病を治す、 老いとともに生きる			
13	支え合っていると① 家族・仲間・近隣の人々・学校や職場			講義
14	支え合っていると② 支え合い			講義
15	地域の生活環境が健康に与える影響 文化的環境・社会的環境・自然環境			講義
16	筆記試験 (1 時間)			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院				評価方法 筆記試験 50 点 地区踏査課題 50 点

科目名 地域健康支援 (いわき市における健康支援)		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
実務経験教員対象科目		単位数 1単位 時間数 15時間	八木 美恵子 保健師	看護師
事前学習内容				
1 いわき市の暮らしの「支え合って生きるとは」を復習する。				
2 長期休暇などを活用しボランティア活動を行う。活動は2か所以上とし、活動時間は合計15時間以上とする。				
科目のねらい・授業目標				DPとの関連
1 いわき市の健康支援と福祉について理解する。				DP I-1 3 4
2 地域に暮らす人々と保健医療従事者とのパートナーシップについて理解する。				DPIV-1
3 一人の住民として互助の精神を身につける。				DPV-2
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	健康と暮らしを支える看護 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 自助・互助・共助・公助の意義と役割 多職種連携、協働の意義と方法			講義
2	いわき市における健康支援① 市保健師による看護活動の実際			講義
3	いわき市における健康支援② 地域包括支援センターにおける看護活動の実際			講義
4	いわき市における健康支援③(1時間) インフォーマルサービス：ボランティア活動の実際			講義
5	看護が提供される多様な場① 小集団学習 多様な場：病院、居宅、療養通所介護事業所、訪問看護事業所、 看護小規模多機能型居宅介護、通所サービス、 地域包括支援センター、介護施設、老人保健施設 法的根拠、看護の実際、看護の役割などについて調べる			演習
6	看護が提供される多様な場② 発表			演習
7	ボランティア活動のまとめ			演習
8	ボランティア活動の発表			演習
使用するテキスト			評価方法	
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院			小集団学習課題 30点	
参考文献			ボランティア活動レポート 70点	
保健のしおり(いわき市) いわき市の保健福祉・子育て支援冊子				
介護保険利用の手引き いわき市				

科目名	地域・在宅看護概論 (地域・在宅看護の対象と看護 の基盤となる概念)	配当時期	2 年前期～ 後期	講義担当者	実務経験
		単位数	1 単位	手戸 邦江 佐藤 江里子	訪問看護認定 看護師
実務経験教員対象科目		時間数	30 時間		
事前学習内容					
地域健康支援の「健康と暮らしを支える看護」「看護が提供される多様な場」を復習する					
科目のねらい・授業目標					DP との関連
1 地域・在宅看護の特徴と在宅療養者および家族について理解する。					DPⅢ-1
2 対象が望ましい生活を継続するための保健・医療・福祉との連携・調整、社会資源活用を理解する。					DPⅣ-1 2 3
3 対象者の生活様式や価値観、自己決定を尊重した看護の重要性を理解する。					DPⅤ-1 2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)					
回	学習内容				方法
1	地域・在宅看護論の対象 健康状態 発達段階 家族				講義
2	在宅看護の特徴① 家族を支える看護、生活の自立・自律支援				講義
3	在宅看護の特徴② 病状・病態の予測と予防、日常生活における安全管理				講義
4	在宅看護の特徴③ 療養の場の移行に伴う看護、チームケアの重要性				講義
5	地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策① (1 時間) 訪問看護の変遷 訪問看護ステーションの管理・運営 権利保障				講義
6	地域・在宅看護論に関連する法と制度と施策② 訪問看護における医療保険・介護保険制度の活用 障害者総合支援法				講義
7	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント① 在宅看護における倫理的課題と自己決定支援				講義
8	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント② 社会資源の理解と活用 (GW)				講義・演習
9	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント③ 社会資源の理解と活用 (GW)				演習
10	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント④ ケースマネジメント・ケアマネジメントの必要性				講義
11	地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント① 家族の理解				講義
12	地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント② 家族理論				講義・演習
13	地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント③ 病態・症状のアセスメント、生活のアセスメント				講義
14	介入時期の看護の継続性① 継続看護の意義、在宅療養移行期				講義
15	介入時期の看護の継続性② 在宅療養の安定期、急性増悪期、終末期				講義
16	試験 (1 時間)				試験
使用するテキスト					評価方法
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院					筆記試験 100 点
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院					
系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院					

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅰ (地域の暮らしを支える看護)	配当時期	2年後期	講義担当者	実務経験
		単位数	1単位	手戸 邦江	
実務経験教員対象科目		時間数	30時間		
事前学習内容					
地域・在宅看護概論の「地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント」「地域で療養生活を送る人と家族のアセスメント」を復習する。					
科目のねらい・授業目標					DPとの関連
1 地域で暮らす人々とその家族を生活の視点からアセスメントし、生活の維持とQOLの向上を目指した看護を理解する。					DPⅢ-1 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1 2
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)					
回	学習内容				方法
1	在宅における看護過程の展開				講義
2	事例の展開① 看護問題の明確化、看護計画立案				講義・演習
3	事例の展開② 看護計画立案、訪問場面の行動計画立案				講義・演習
4	事例の展開③ 訪問場面の行動計画立案				講義・演習
5	事例の展開④ ロールプレイ発表 実践の評価(4時間)				演習
6					
7	暮らしの保健室づくり①(3時間)				講義・演習
8	地区踏査に向けての事前計画				
9	暮らしの保健室づくり②(4時間)				演習
10	地区踏査(地域の環境 地域の暮らしと健康)				
11	暮らしの保健室づくり③ 地域の強みと課題の抽出 住み慣れた地域でその人らしい生活を続けるための提案				演習
12	暮らしの保健室づくり④(4時間)				演習
13	暮らしの保健室をデザインする				
14	暮らしの保健室づくり⑤ 健康教室の計画				演習
15	暮らしの保健室づくり⑥(3時間)				演習
16	暮らしの保健室デザイン 健康教室計画の発表				
使用するテキスト					評価方法
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院					事例展開パフォーマンス課題 50点 保健室づくりパフォーマンス課題 50点

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ (在宅における生活支援・医療 管理を必要とする人と家族 への看護)	配当時期	3 年前期	講義担当者	実務経験
				手戸 邦江	
		単位数	1 単位		
		時間数	30 時間		
実務経験教員対象科目					
事前学習内容					
基礎看護学（日常生活援助技術）の復習					
科目のねらい・授業目標					DP との関連
1 在宅における生活支援の方法と技術および、医療依存度の高い在宅療養者の看護について理解する。					DPⅢ-1 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）					
回	学習内容				方法
1	暮らしの場で行われる生活支援の方法と技術① 食事・栄養				講義
2	暮らしの場で行われる生活支援の方法と技術② 清潔				講義
3	暮らしの場で行われる生活支援の方法と技術③ 洗髪演習（手作りケリーパッド、おむつ、洗髪器）				演習
4	暮らしの場で行われる生活支援の方法と技術④ 排泄・ストーマケア				講義
5	暮らしの場で行われる生活支援の方法と技術⑤ ストーマケア演習				演習
6	暮らしの場で行われる生活支援の方法と技術⑦ （1 時間） 移動・リハビリテーション				講義
7	暮らしの場で行われる生活支援の方法と技術⑧ 福祉用具・住宅改修 福祉用具店の見学				演習
8	暮らしの場で行われる治療と看護① 経管栄養法 在宅中心静脈栄養法				講義
9	暮らしの場で行われる治療と看護② 自己導尿法 膀胱留置カテーテル				講義
10	暮らしの場で行われる治療と看護③ 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法				講義
11	暮らしの場で行われる治療と看護④ 在宅医療機器体験学習 （4 時間）				演習
12					
13	地域の暮らしを支える看護実践プロセス① 筋萎縮性側索硬化症の在宅療養者への看護				講義・演習
14	地域の暮らしを支える看護実践プロセス② 最期まで自宅で過ごしたい終末期のがん療養者への看護				講義・演習
15	地域の暮らしを支える看護実践プロセス③ 在宅療養を開始する重症心身障害児への看護				講義・演習
16	試験（1 時間）				試験
使用するテキスト				評価方法	
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 医学書院				洗髪演習レポート 10 点 筆記試験 90 点	

科目名 老年看護学概論		配当時期 1年後期	講義担当者	実務経験
		単位数 1単位	八木 美恵子	看護師
実務経験教員対象科目		時間数 30時間		
事前学習内容 シラバスを事前に確認し、自分なりに予習をし、授業の中で何を学ぶのかを理解しておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 老年期にある対象の特徴と老年看護の機能・役割を理解し、「老いを生きる」を支える援助を考えるために必要な基本的知識を学ぶ。				DPとの関連 DPⅢ-1 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）				
回	学習内容			方法
1	高齢者の理解の基本となる概念① 老年期の発達・変化（ライフサイクルからみた高齢者の理解、加齢と老化、発達課題）			講義
2	高齢者の理解の基本となる概念② 高齢者の生活の質の保障（自立支援、老いるということ・老いを生きるということ）			講義
3	高齢者の生活① その人らしい生活の継続（生活史、高齢者の暮らし、高齢者と生活リズム）			講義
4	高齢者の生活② 高齢者の生活機能のアセスメント（ICF、CGA、ADLとIADL、日常生活自立度判定 要介護と要支援の認定と区分）			講義
5	高齢者の生活③ 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度（高齢者医療制度、介護保険制度の概要と活用）			講義
6	高齢者の生活④ 高齢者模擬体験、歩行・移動・姿勢保持（3時間）			講義・演習
7				
8	高齢者の生活⑤ 歩行・移動・姿勢保持のための援助			講義・演習
9	高齢者の健康① 高齢者の健康と疾病			講義
10	高齢者の健康② 加齢に伴う身体的変化			講義
11	高齢者の健康③ 加齢に伴う認知機能、心理・社会的変化			講義
12	老年看護の基本① 老年看護の変遷 理念・概念の活用			講義
13	老年看護の基本② 老年看護の倫理（差別防止、虐待防止、身体拘束）			講義
14	老年看護の基本③ 老年看護の倫理（権利擁護、意思決定支援）			講義
15	老年看護の基本④ 老年看護の特徴 老年看護に携わる者の責務			講義
16	試験			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院			評価方法 筆記試験 70点 パフォーマンス評価 30点	
参考文献 介護保険利用の手引き いわき市				

科目名 老年看護学方法論Ⅰ (加齢変化や障害・疾病に応じた高齢者の看護、多様な生活の場における高齢者の看護) 実務経験教員対象科目	配当時期 2年前期 単位数 1単位 時間数 30時間	講義担当者 八木 美恵子 高萩 由美子	実務経験 看護師 皮膚排泄ケア 認定看護師
事前学習内容 老年看護学概論の授業内容を復習しておくこと。			
科目のねらい・授業目標 1 加齢変化と疾病がもたらす生活への影響を理解し、高齢者への看護の方法を学ぶ。 2 老年看護と福祉の意義を理解し、多様な生活の場における高齢者の健康と生活を支える看護の役割を学ぶ。			DPとの関連 DPⅢ-1 2 3 DPⅣ-1 2 3 DPⅤ-1
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)			
回	学習内容		方法
1	高齢者の生活を支える看護① 基本動作と生活環境のアセスメント		講義
2	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護① 視覚障害 聴覚障害 高齢者の生活を支える看護② コミュニケーション		講義
3	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護② 脱水症 摂食・嚥下障害 低栄養 高齢者の生活を支える看護③ 食事		講義
4	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護③ 睡眠障害 高齢者の生活を支える看護④ 睡眠・休息、覚醒・活動		講義
5	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護④ 尿失禁、便秘(排便)・下痢 高齢者の生活を支える看護⑤ 排泄		講義 演習
6	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑤ 皮膚の障害 高齢者の生活を支える看護⑥ 清潔(身じたく)		講義
7	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑥ 骨粗鬆症 骨折 高齢者の生活を支える看護⑦ 転倒・転落の防止		講義
8	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑦ 廃用症候群		講義
9	高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑧ 褥瘡予防ケア		講義 演習
10	高齢者の生活を支える看護⑧ セクシュアリティ 社会参加		講義
11	さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護① 外来を受診する高齢者の看護 検査を受ける高齢者の看護 治療を受ける高齢者の看護		講義
12	事例の展開(パーキンソン症候群の看護)		講義
13	事例の展開(パーキンソン症候群の看護)		講義
14	さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護② 介護予防		講義
15	多様な生活の場とリロケーション		講義
16	試験(1時間)		試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 参考文献 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活関連図 医学書院		評価方法 筆記試験 70点 パフォーマンス評価 30点	

科目名	老年看護学方法論Ⅱ (認知機能障害のある高齢者の看護、高齢者家族への看護)	配当時期	2年後期	講義担当者	実務経験
				新國 香	看護師
実務経験教員対象科目		単位数	1単位		
		時間数	15時間		
事前学習内容					
老年看護学概論および老年看護学方法論Ⅰの授業内容を復習しておくこと。					
科目のねらい・授業目標					DPとの関連
1 認知機能障害のある高齢者の特徴を理解し、その看護の方法を学ぶ					DPⅢ-1
2 加齢変化や健康を障害された高齢者の家族に対しての看護の方法を学ぶ					DPⅣ-1 2
					DPⅤ-1
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・方法)					
回	学習内容				方法
1	認知機能障害のある高齢者の看護① せん妄とは 認知症とは 認知症の原因疾患と看護				講義
2	認知機能障害のある高齢者の看護② 認知症症状の理解				講義 演習
3	認知機能障害のある高齢者の看護③ 予防治療、療法的アプローチ				講義
4	認知機能障害のある高齢者の看護④ 周辺症状と生活への影響				講義
5	認知機能障害のある高齢者の看護⑤ 認知症高齢者への基本的姿勢				講義
6	高齢者の家族への看護①				講義
7	高齢者の家族への看護②				講義
8	試験(1時間)				試験
使用するテキスト					評価方法
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院					筆記試験 70点
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院					パフォーマンス評価 30点
参考文献					
介護保険利用の手引き いわき市					

科目名 精神看護学概論 (精神の健康、対象・目的の理解)		配当時期 1年後期	講義担当者 平澤 由希子	実務経験
実務経験教員対象科目		単位数 1単位 時間数 30時間		
事前学習内容 心理学、人間関係論の授業内容の復習をしておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 精神の健康を理解し、健全な精神の発達への援助を思考するのに必要な基礎的知識を学ぶ。 2 精神看護の対象・目的を理解し、危機状況や精神を障害された個人とその家族への援助を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。				DPとの関連 DPⅢ - 1 DPⅣ - 1 DPⅤ - 1 2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	精神看護学概要 心の構造と働き 心身の発達 フロイトによる精神性的発達論 マーラーの母子関係発達論 人間の性 (セクシュアリティ) とその発達			講義
2	精神の健康とは① 精神の健康の定義 精神障害のとりえ方			講義
3	精神の健康とは② いわき市におけるあらゆる場でのメンタルヘルス (フィールドワーク) 事前学習			演習
4	精神の健康とは③ いわき市におけるあらゆる場でのメンタルヘルス (フィールドワーク) 事前学習			演習
5	精神の健康とは④ いわき市におけるあらゆる場でのメンタルヘルス (フィールドワーク)			演習
6	精神の健康とは⑤ いわき市におけるあらゆる場でのメンタルヘルス (フィールドワーク) 学びの共有、まとめ			演習
7	精神の健康とは⑥ いわき市におけるあらゆる場でのメンタルヘルス (フィールドワーク) 学びの共有、まとめ			演習
8	精神の健康とは⑦			演習
9	いわき市におけるあらゆる場でのメンタルヘルス (フィールドワーク) 学びの発表 (3時間)			演習
10	社会の中の精神障害 精神障害と治療の歴史 偏見・差別・スティグマ			講義
11	ケアにおける人間関係① ケアの前提・原則・方法 患者―看護師関係で起こること プロセスレコード グループダイナミクス 精神科医療チームと看護			講義・演習
12	ケアにおける人間関係②			講義・演習
13	ケアにおける人間関係③			講義・演習
14	ケアにおける人間関係④			講義・演習
15	精神科以外での精神看護 身体疾患と精神看護 リエゾン精神看護			講義
16	筆記試験 (1時間)			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院			評価方法 筆記試験 70点 パフォーマンス評価 30点	

科目名 精神看護学方法論Ⅰ (精神障害時の看護)		配当時期 2年後期	講義担当者 國井 真弓 阿部 正浩	実務経験
		単位数 1単位 時間数 30時間		
実務経験教員対象科目				
事前学習内容 精神看護学概論の授業内容の復習をしておくこと。				
科目のねらい・授業目標 1 既習の知識を統合して、精神活動に障害のある個人および家族への援助に必要な具体的な知識・技術を学ぶ。				DPとの関連 DPⅢ - 1 2 DPⅣ - 1 2 3 DPⅤ - 1 2
授業の流れ (全体のスケジュール (回数)・方法)				
回	学習内容			方法
1	入院治療の目的と意味			講義
2	人権擁護と安全①			講義
3	人権擁護と安全②			講義
4	精神障害と法制度			講義
5	統合失調症と看護①			講義
6	統合失調症と看護②			講義
7	気分障害と看護			講義
8	精神作用性物質関連障害と看護			講義
9	パーソナリティ障害と看護 習慣および衝動の障害と看護			講義
10	神経症性障害と看護 ストレス関連性障害と看護 生理的障害および身体的要因関連した行動症候群と看護			講義
11	精神遅滞と看護 神経発達障害と看護			講義
12	プロセスレコードの活用 (1時間)			講義
13	事例演習 患者の全体像の把握			演習
14	事例演習 セルフケア行動のアセスメントと援助			演習
15	統合失調症患者の看護			演習
16	筆記試験 (1時間)			試験
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 医学書院			評価方法 筆記試験 70点 パフォーマンス評価 30点	

科目名 精神看護学方法論Ⅱ (地域における精神看護、精神看護における倫理、看護職の精神の健康)	配当時期 3年前期	講義担当者 平澤 由希子	実務経験
	単位数 1単位 時間数 15時間		
実務経験教員対象科目			
事前学習内容 精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰの復習をしておくこと。 いわき市で精神障害者が利用できる社会資源について調べておくこと。			
科目のねらい・授業目標 1 精神活動に障害のある個人および家族を医療チームで支えるために必要な看護師の役割を考える。 2 精神看護における倫理について考え、自己の倫理観を高める。 3 カンファレンスを通し、看護者としての自己の精神の健康について考える。			DPとの関連 DPⅢ - 1 2 DPⅣ - 1 2 3 DPⅤ - 1 2
授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・方法）			
回	学習内容	方法	
1	地域における精神看護（長期入院患者の地域移行支援）① ケアマネジメント 生活を支える社会資源・サービス	講義・演習	
2	地域における精神看護（長期入院患者の地域移行支援）②	演習	
3	グループワーク（3時間）		
4	地域における精神看護（長期入院患者の地域移行支援）③ 発表	演習	
5	精神看護における倫理①	講義・演習	
6	精神看護における倫理②	演習	
7	看護職の精神の健康① 感情労働 共感疲労 レジリエンス ピア	講義・演習	
8	看護職の精神の健康②	演習	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 参考文献 臨床倫理学 新興医学出版社		評価方法 パフォーマンス評価 100点	